

神鋼鋼板加工

12KWファイバーレーザー稼働

鉄骨向け切板を短納期対応

25ミリ厚を
高品位に

建材型厚板溶断業大手の神鋼鋼板加工（本社・千葉県市川市、社長・水上孝一氏）は、

発振器出力12KWの門型ファイバーレーザー切断機が3月から本格稼働体制に入った。

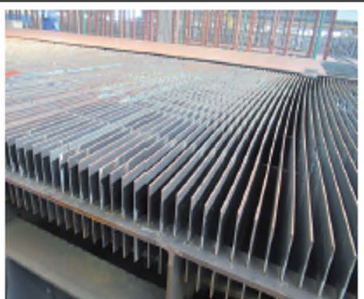
同社は、顧客満足度向上策の一環で建築鉄骨向け小物切板の納期対応力を引き上げる全社プロジェクト（PJ）を推進中。12KWレーザーは、それを実践する

重要な設備計画と位置付けていた。

具体的には、板厚25ミリまでを対象にSN490Cといった建築用規格材のほか橋梁用シンクリッチプライマー材なども含めて高品質・高精度な切板を安定切断し、納期対応力強化につなげる狙い。

導入したのは、小池酸素工業製「FIBERTEX Zero1 2000-D BC」

し、高品位な切板を生産可能とする小池酸素



定盤も刷新し「跳ね返りキズ」防止

の独自技術。同じく小池酸素の独自技術で、良好な切断面質を実現し裏ノロが付着しにくいなどの特性を持つ「パルシー切断」機能も採用した。インクジェット式マーキングも搭載し、印字・郵書き作業を自動化している。

は撤去した。設備の入れ替えを機に、定盤も刷新。レーザー切断中の母材裏面への「跳ね返りキズ」を防止するため、定盤の「挿し板」に用いるフラットバーの板厚を全て3.2ミリに薄物化し、

しかも強度を確保するため挿し板に「たわみ」を付けるなど独自の工夫も加えた。これも、生産性向上に寄与し、同社が取り組む「超短工期特別対応PJ」の実現につなげている。

昨年秋の設置後、定盤刷新に伴う調整に時間を要したが、3月から軌道に乗せ、5日には安全祈願を兼ねた落成式を済ませた。

新生コベルコリースが補助金申請支援
神鋼鋼板加工が新設した12KWのDBCレーザーは、従来のCO₂レーザーに比べて優れた省エネ性能を備えることから、設備導入に当たり令和6年度の「省エネルギー投資促進支援事業費補助金（省エネ補助金）」を申請し、採択された。

今回の補助金申請業務は、同じ神戸製鋼所グループの新生コベルコリース（本社・神戸市）が支援した。新生コベルコリースは今後も製造業全般を中心に、各種補助金制度を活用した設備投資支援を通じて顧客の環境対応と財務効率向上の両立につながるファイナンスソリューションを展開していく方針。



「超短工期特別対応PJ」の要となるDBCレーザー

（発振器はフジクラ製。定盤サイズは、有効切断幅4・2尺×有効切断長55尺。DBC（デュアルビームコントロール）は、母材の板厚や鋼種、表面性状に合わせ最適なビームを調整

12KWレーザー新設に伴い、経年劣化していた6KWのCO₂レーザー